医療機関における「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート調査結果

第１章 調査の概要について

１．調査の目的と構成

小児の診療に携わる医師及び歯科医師を対象に，こどもの「食べる力（口腔機能）」に関する相談状況や支援の実態，課題等を把握し，今後の口腔機能発達支援の推進に向けた基礎資料を得ることを目的として実施しました。

２．調査時期及び対象，回答状況

実施時期	調査対象	対象者数	回答数（回答率）
令和8年1月	小児の臨床に携わる歯科医師	390 人	131 人（33.6%）
	小児の臨床に携わる医師	143 人	36 人（25.2%）

３．調査方法

LoGo フォーム（Web）によるアンケート調査を実施しました。

４．主な調査項目

（１）回答者及び基本属性に関する項目
　１．臨床経験年数
　２．主な診療科
（２）食に関する保護者からの相談状況
　１．保護者からのこどもの食に関する相談の有無と内容
　２．保護者側の食に関する相談の有無と内容
　３．食の相談に対する対応
（３）口腔機能障害を伴うこどもの摂食嚥下障害や構音障害に関する相談と対応
　１．摂食嚥下障害や構音障害に関する相談の有無
　２．摂食嚥下障害や構音障害に関する相談に対する対応
（４）こどもの食べる力（口腔機能）の育成に関する取り組み
　１．食べる力の育成支援の取り組み状況
　２．食べる力の育成に取り組むにあたり多い症状や課題
　３．食べる力の育成のために必要と考えていること
（５）情報媒体に関する認知状況
　１．仙台市のこどもの歯と口の健康づくり媒体の認知度

５．調査の設計及び集計分析

本調査は，小児の臨床に携わる医師，歯科医師としたアンケート調査として実施しました。集計は各設問の有効回答数を分母として単純集計を行い，回答割合（%）を算出しました。

なお，複数回答設問については，回答割合の合計が 100%を超える場合があります。また，自由記載については内容を整理，分類し，現場の課題や支援ニーズの把握に活用しました。分析にあたっては，幼児健康診査受診児の保護者等を対象とした調査，教育・保育施設を対象とした調査結果を比較しながら，こどもの食べる力（口腔機能）の現状や課題，支援状況について総合的に考察しました。

第２章 調査結果の概要

（１）回答者及び基本属性に関する項目

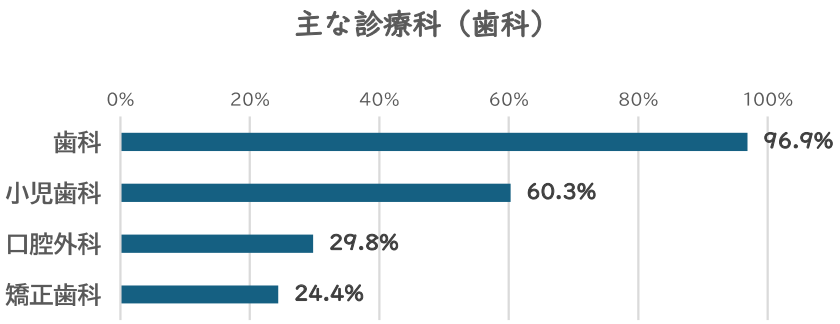
１．臨床経験年数

回答内容	歯科医師（n=131）	医師（n=36）
平均経験年数	30.2 年	31.6 年
中央値	30 年	33 年
最小値	9 年	12 年
最大値	50 年	50 年

２．主な診療科

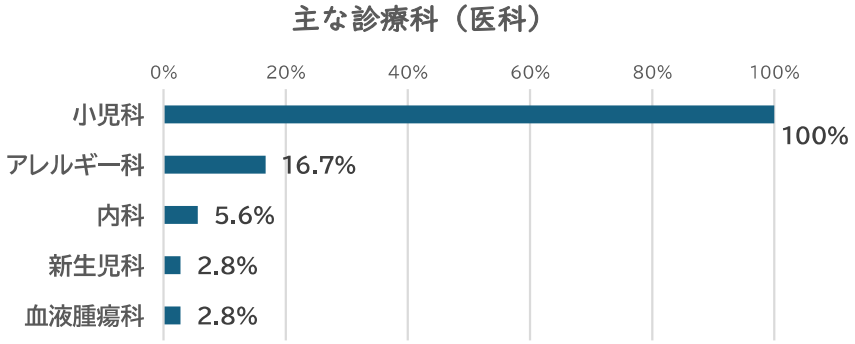
【歯科医師】　n＝131

回答内容	人数	割合
歯科	127 人	96.9%
小児歯科	79 人	60.3%
口腔外科	39 人	29.8%
矯正歯科	32 人	24.4%



【医師】　n＝36

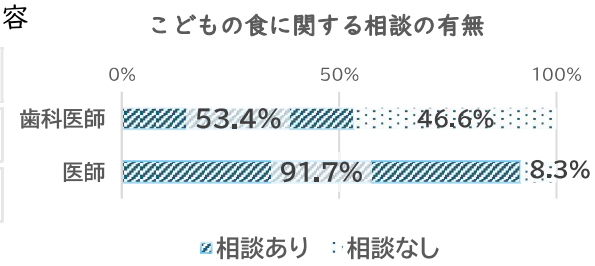
回答内容	人数	割合
小児科	36 人	100%
アレルギー科	6 人	16.7%
内科	2 人	5.6%
新生児科	1 人	2.8%
血液腫瘍科	1 人	2.8%



（２）食に関する保護者からの相談状況

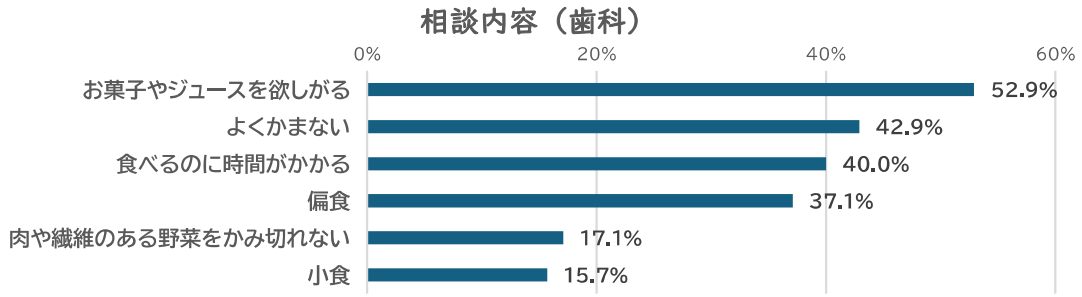
１．保護者からのこどもの食に関する相談の有無と内容

回答内容	歯科医師（n=131）	医師（n=36）
相談あり	70 人（53.4%）	33 人（91.7%）
相談なし	61 人（46.6%）	3 人（8.3%）



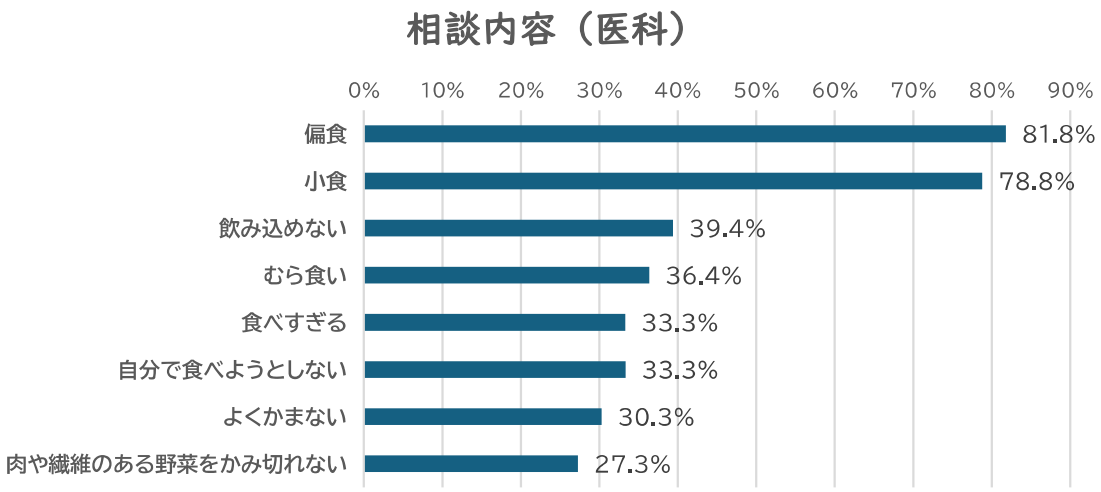
【歯科医師】　　n＝70

回答内容（複数回答）	人数	割合
お菓子やジュースを欲しがる	37 人	52.9%
よくかまない	30 人	42.9%
食べるのに時間がかかる	28 人	40.0%
偏食	26 人	37.1%
肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）	12 人	17.1%
小食	11 人	15.7%



【医師】　　n＝33

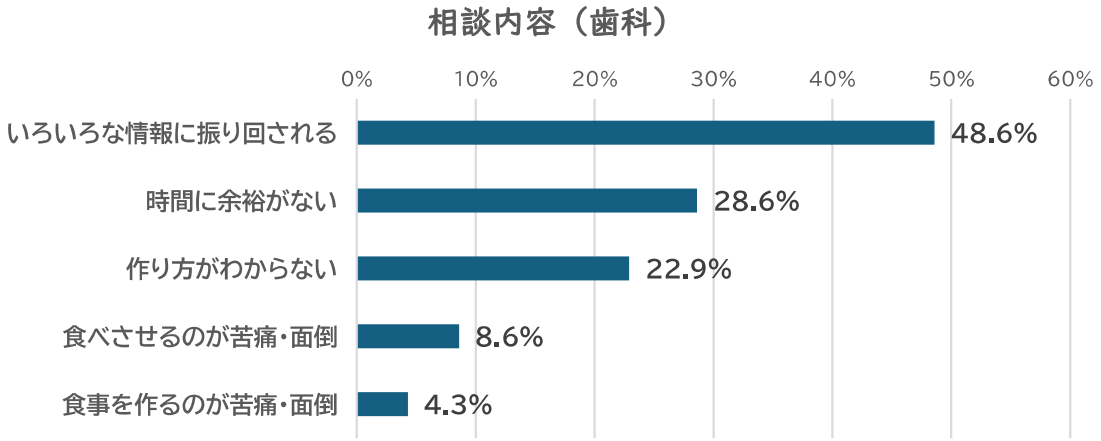
回答内容（複数回答）	人数	割合
偏食	27人	81.8%
小食	26人	78.8%
飲み込めない	13 人	39.4%
むら食い	12 人	36.4%
食べすぎる	11 人	33.3%
自分で食べようとしない	11 人	33.3%
よくかまない	10人	30.3%
肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）	9 人	27.3%



2．保護者側の食に関する相談内容

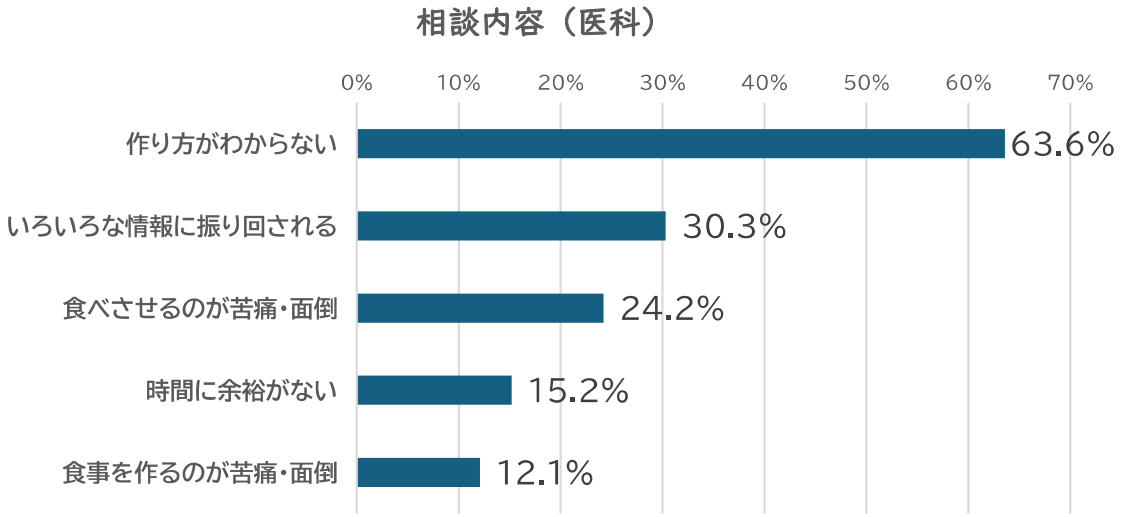
【歯科医師】　　n＝70

回答内容（複数回答）	人数	割合
いろいろな情報に振り回される	34 人	48.6%
時間に余裕がない	20 人	28.6%
こどもが食べやすい食事の作り方がわからない	16 人	22.9%
食べさせるのが苦痛・面倒	6 人	8.6%
食事を作るのが苦痛・面倒	3 人	4.3%



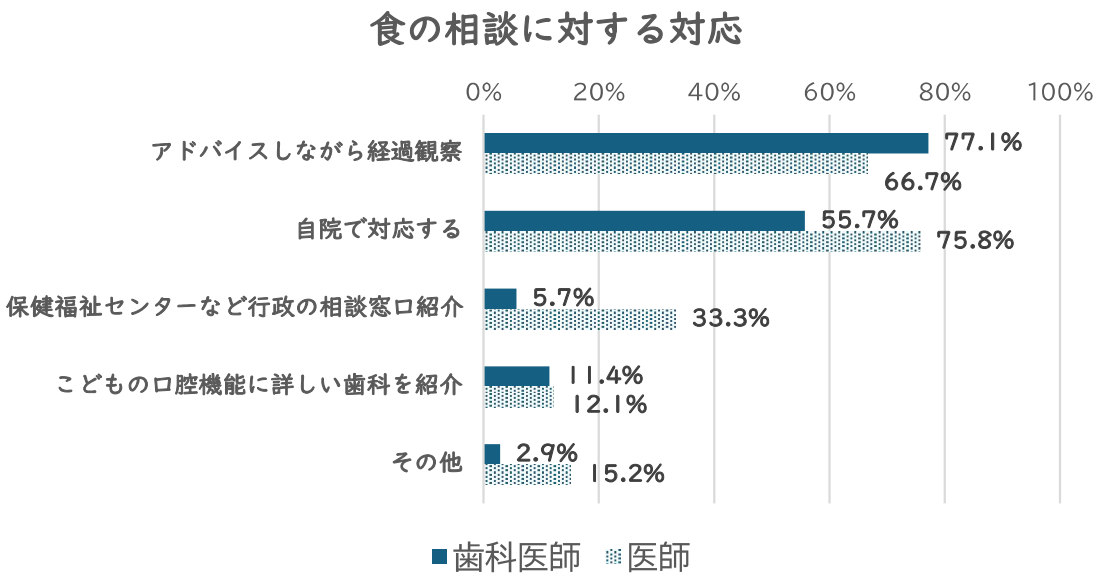
【医師】　　n＝33

回答内容（複数回答）	人数	割合
こどもが食べやすい食事の作り方がわからない	21人	63.6%
いろいろな情報に振り回される	10人	30.3%
食べさせるのが苦痛・面倒	8人	24.2%
時間に余裕がない	5人	15.2%
食事を作るのが苦痛・面倒	4人	12.1%



3．食の相談に対する対応

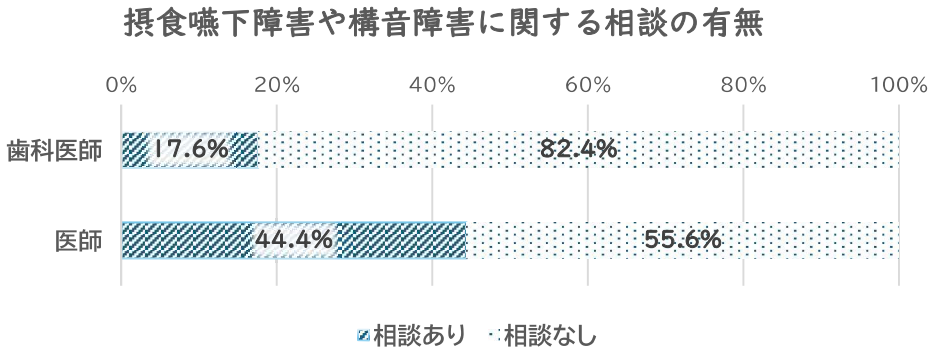
回答内容（複数回答）	歯科医師（n＝70）	小児科医（n＝33）
アドバイスしながら経過観察する	54人（77.1%）	22人（66.7%）
自院で対応する	39人（55.7%）	25人（75.8%）
保健福祉センターなど行政の相談窓口を紹介する	4人（5.7%）	11人（33.3%）
こどもの口腔機能に詳しい歯科を紹介する	8人（11.4%）	4人（12.1%）
その他	2人（2.9%）	5人（15.2%）



（3）口腔機能障害を伴う，こどもの摂食嚥下障害や構音障害に関する相談と対応

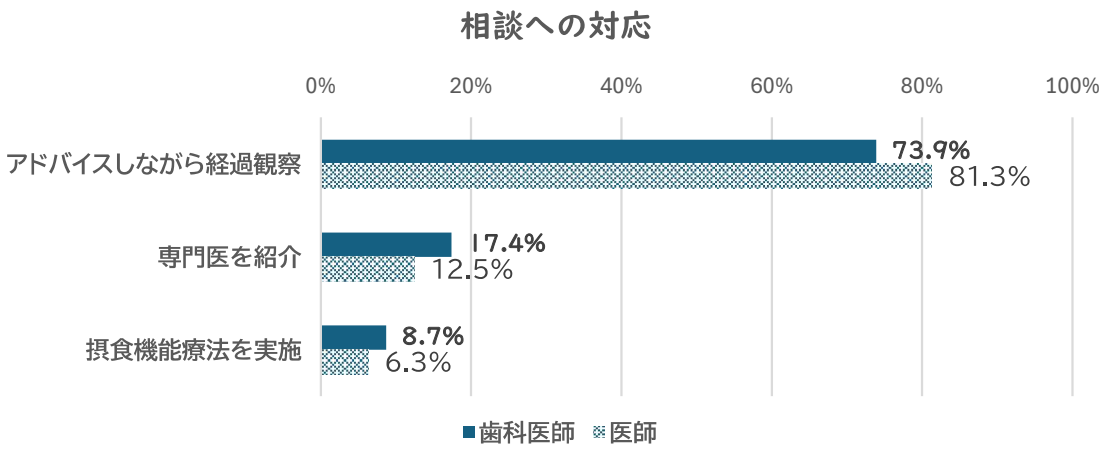
1．摂食嚥下障害や構音障害に関する相談の有無

回答内容	歯科医師（n=131）	医師（n=36）
相談あり	23 人（17.6%）	16 人（44.4%）
相談なし	108 人（82.4%）	20 人（55.6%）



2．摂食嚥下障害や構音障害に関する相談に対する対応

回答内容	歯科医師（n=23）	医師（n=16）
アドバイスしながら経過観察を行う	17 人（73.9%）	13 人（81.3%）
専門医を紹介	4人（17.4%）	2人（12.5%）
摂食機能療法を実施する	2人（8.7%）	1人（6.3%）

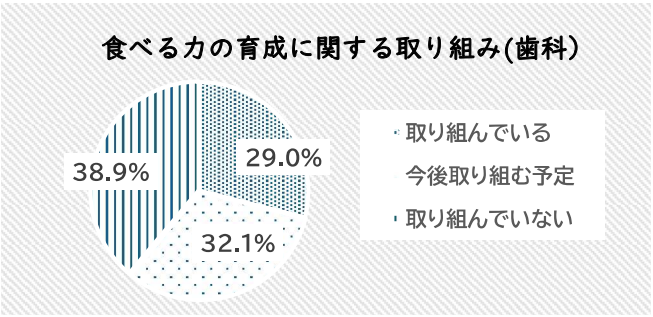


（4）こどもの食べる力（口腔機能）の育成に関する取り組み

1．食べる力（口腔機能）の育成への取り組み状況

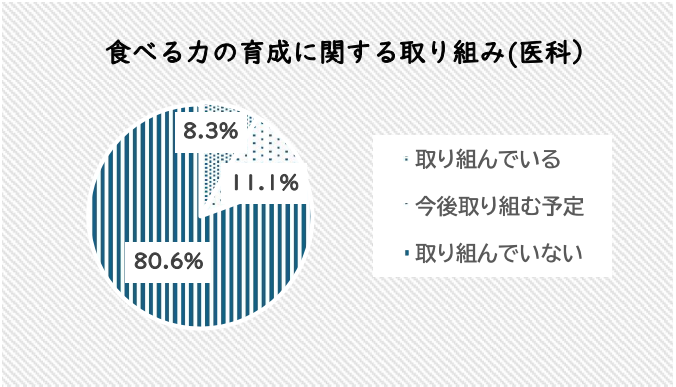
【歯科医師】

回答内容	人数	割合
取り組んでいる（はい）	38 人	29.0%
今後取り組む予定	42 人	32.1%
取り組んでいない（いいえ）	51 人	38.9%
合計	131 人	100%



【医師】

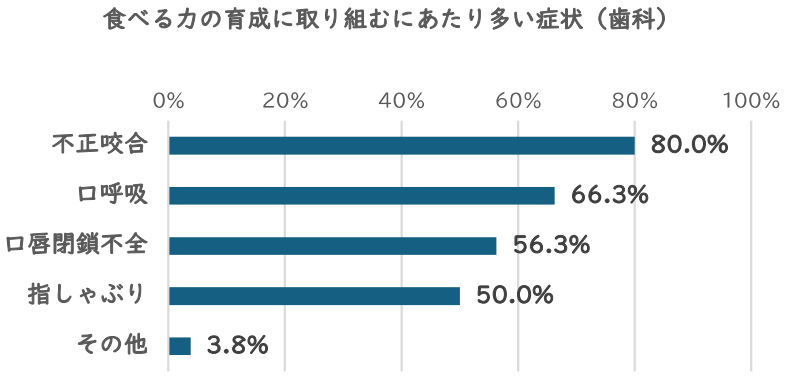
回答内容	人数	割合
取り組んでいる（はい）	3人	8.3%
今後取り組む予定	4人	11.1%
取り組んでいない（いいえ）	29 人	80.6%
合計	36人	100%



2．食べる力の育成に取り組むにあたり多い症状や課題

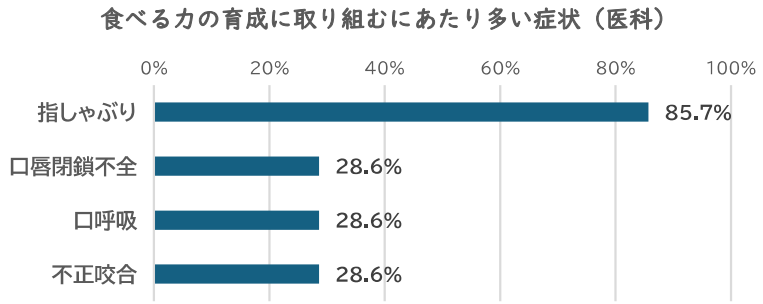
【歯科医師】　　n＝80

回答内容	人数	割合
不正咬合	64 人	80.0%
口呼吸	53 人	66.3%
口唇閉鎖不全	45 人	56.3%
指しゃぶり	40 人	50.0%
その他	3 人	3.8%



【医師】　　n＝7

回答内容	人数	割合
指しゃぶり	6 人	85.7%
口唇閉鎖不全	2 人	28.6%
口呼吸	2 人	28.6%
不正咬合	2 人	28.6%



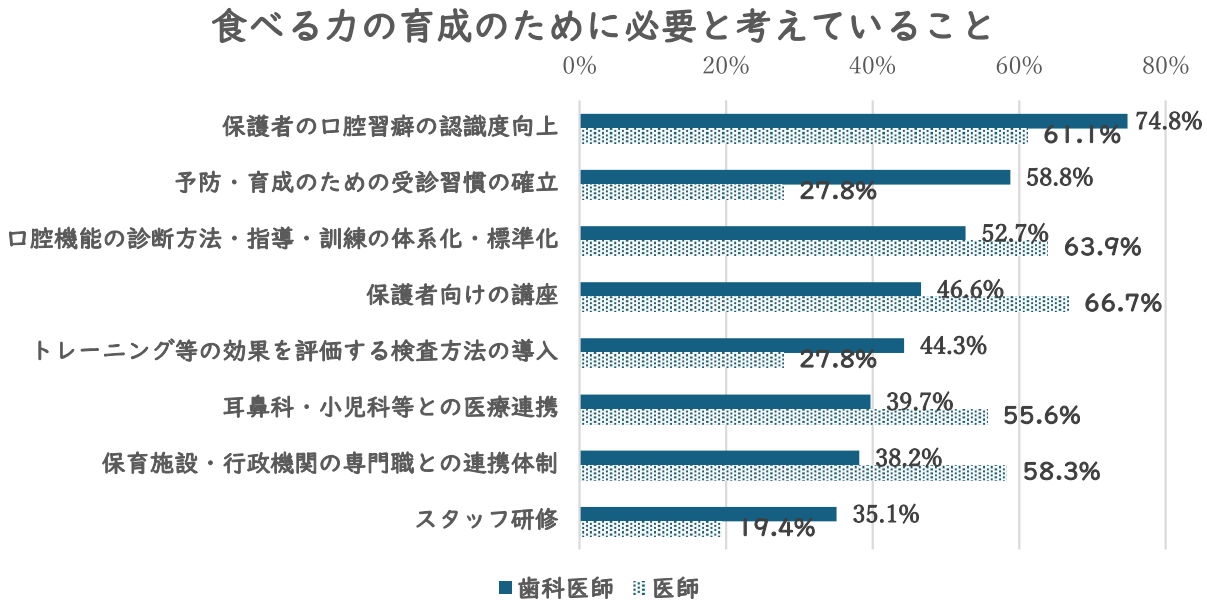
3．食べる力の育成のために必要と考えていること

【歯科医師】　　n＝131

回答内容（複数回答）	人数	割合
保護者の口腔習癖の認識度向上	98 人	74.8%
予防･育成のための受診習慣の確立	77 人	58.8%
口腔機能に関する診断方法･指導･訓練の体系化･標準化	69 人	52.7%
保護者向けの講座	61 人	46.6%
トレーニング等の効果を客観的に評価する簡便な検査方法の導入	58 人	44.3%
耳鼻科･小児科等との医療連携	52 人	39.7%
保育施設･行政機関の専門職との連携体制	50 人	38.2%
スタッフ研修	46 人	35.1%

【医師】　　n＝36

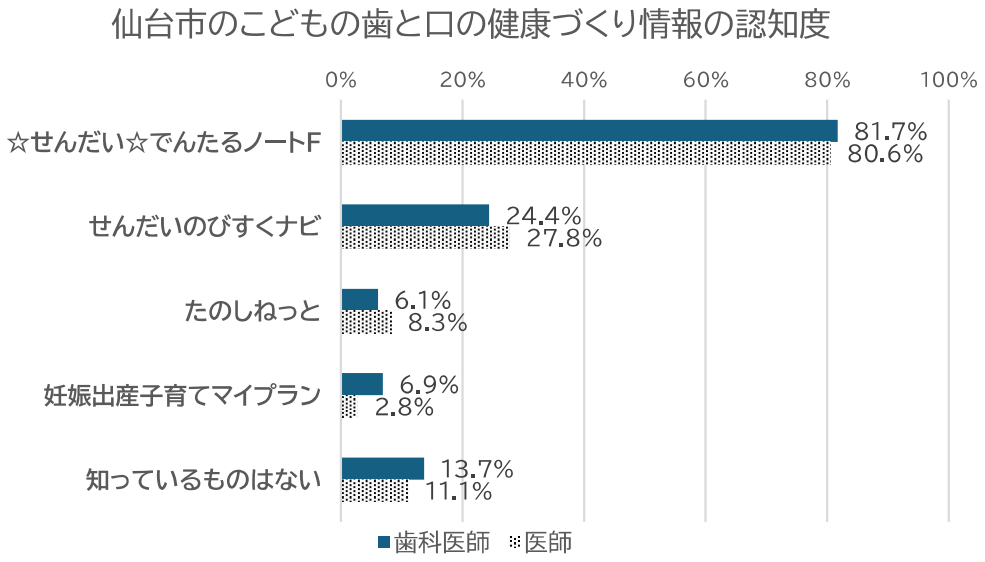
回答内容（複数回答）	人数	割合
保護者向けの講座	24 人	66.7%
口腔機能に関する診断方法・指導・訓練の体系化・標準化	23 人	63.9%
保護者の口腔習癖の認識度向上	22 人	61.1%
保育施設・行政機関の専門職との連携体制	21 人	58.3%
耳鼻科・小児歯科等との医療連携	20 人	55.6%
トレーニング等の効果を客観的に評価する簡便な検査方法の導入	10 人	27.8%
予防・育成のための受診習慣の確立	10 人	27.8%
スタッフ研修	7 人	19.4%



（５）情報媒体に関する認知状況

１．仙台市のこどもの歯と口の健康づくり媒体の認知度

回答内容	歯科医師（n=131）	医師（n=36）
☆せんだい☆でんたるノートＦ	107 人（81.7%）	29 人（80.6%）
せんだいのびすくナビ	32 人（24.4%）	10 人（27.8%）
たのしねっと	8 人（6.1%）	3 人（8.3%）
妊娠出産子育てマイプラン	9 人（6.9%）	1 人（2.8%）
知っているものはない	18 人（13.7%）	4 人（11.1%）



第３章 こどもの「食べる力」の育成支援に係る現状と課題

１．こどもの食に関する心配や困りごとに関する保護者からの相談と対応について

医療機関における調査結果から，保護者からの食に関する相談は，小児科，歯科ともに日常診療の中で一定数寄せられていることが分かりましたが，その相談内容や対応には職種ごとの特徴がみられました。保護者からの食に関する相談を受けている割合は，歯科医師は 53.4%（70 人），医師は 91.7%（33 人）であり，小児科が食に関する相談の主要な窓口となっていました。

また，１か月あたりの相談件数は，歯科医師で平均 3.0 件（中央値１件），医師で平均 7.6 件（中央値５件）であり，医師の方がより多くの相談に対応していました。相談内容についてみると，歯科医師は，「お菓子やジュースを欲しがる」52.9%（37 人），「よくかまない」42.9%（30 人），「食べるのに時間がかかる」40.0%（28 人），「偏食」37.1%（26 人）などが多く，咀嚼や食習慣，口腔機能と関連する内容が中心となっていました。一方，医師は，「偏食」81.8%（27 人），「小食」78.8%（26 人）が特に多く，「飲み込めない」39.4%（13 人），「むら食い」36.4%（12 人），「食べすぎる」33.3%（11 人），「自分で食べようとしない」33.3%(11 人)「よくかまない」30.3%（10 人）など，食事量や栄養，摂食嚥下機能，発達に関する幅広い相談が寄せられていました。また，保護者自身に関する相談内容としては，歯科医師は「いろいろな情報に振り回される」48.6%（34 人），「時間におわれて食事に余裕がない」28.6%（20 人），「こどもが食べやすい食事の作り方がわからない」22.9%（16 人）が多くみられました。医師では，「こどもが食べやすい食事の作り方がわからない」63.6%（21 人）が最も多く，次いで「いろいろな情報に振り回される」30.3%（10 人），「食べさせるのが苦痛・面倒」24.2%（8 人）と続きました。相談への対応としては，歯科医師は「アドバイスしながら経過観察する」77.1%（54 人）が最も多

く，次いで「自院で対応する」55.7%（39 人）を挙げていました。医師も「自院で対応する」75.8%（25 人），「アドバイスしながら経過観察する」66.7%（22 人）の回答が上位を占めました。一方，医師は「保健福祉センターなど行政の相談窓口を紹介する」33.3%（11 人）が比較的多く，必要に応じて他機関へつなぐ役割を担っていました。

相談対応時の課題としては，歯科医師からは「保護者が問題点に気付いていない」「家庭環境や生活習慣を把握しにくい」「食に関する専門的な助言が難しい」といった意見が上げられました。医師からは，「実際の摂取量の把握が難しい」「咀嚼・嚥下・発達など原因の切り分けが難しい」「専門機関への紹介先が限られている」といった課題が挙げられていました。

これらの結果から，医師は，食や発達に関する相談の入口としての役割を担い，歯科医師は咀嚼や口腔機能，食習慣に関する専門的支援を行う立場にあることがうかがえました。一方で，保護者の相談内容は多様化しており，医療機関だけで完結することが難しいケースも少なくありません。そのため，歯科，小児科，教育・保育施設，行政，言語聴覚士等が連携し，それぞれの専門性を生かしながら支援を行う体制づくりが重要であると考えられます。

２．口腔機能障害を伴う，こどもの摂食嚥下障害等に関する相談と対応について

摂食嚥下障害に関する相談は，小児科医師がより多く受けており，初期相談やスクリーニングの役割を担っていることがうかがえました。一方，歯科医師は，相談件数は少ないものの，継続的な経過観察や口腔機能の視点から支援を行っている状況がみられました。また，両職種とも必要に応じて専門機関への紹介を行っており，摂食嚥下障害への対応は単一の職種のみで完結するものではなく，多職種連携を前提として行われていることが分かりました。

幼児の保護者対象調査結果では，「かみ切れない（飲み込めない）」が１歳６か月児 14.8%，２歳６か月児 14.0%，３歳７か月児 14.2%と各年齢で一定数みられました。また，医師への相談内容でも「飲み込めない」39.4%，「かみ切れない（飲み込めない）」が 27.3%を占めていました。

これらのことから，摂食嚥下機能に課題を抱えるこどもは一定数存在しており，保護者，教育・保育施設，小児科，歯科，言語聴覚士，行政等が連携しながら，早期発見・早期支援につなげていく体制の整備が重要であると考えられます。

３．こどもの食べる力の育成に関する取り組み状況について

歯科医師は，こどもの食べる力の育成に関連する症状として，不正咬合や口呼吸，口唇閉鎖不全など，口腔機能と密接に関係する症状を多く挙げていました。また，既に約３割が食べる力の育成支援に取り組んでおり，３割強が「今後取り組む予定」と回答していたことから，口腔機能発達支援への関心は高い状況にあると考えられます。

一方，医師は，食や発達に関する相談を多く受けているものの，実際に口腔機能発達支援へ取り組んでいる割合は１割未満でした。その背景として，評価方法や支援方法の標準化が十分ではないことや，医療機関単独で対応できる範囲に限界があることが考えられます。両職種に共通し

て，「保護者への啓発」「診断・指導方法の標準化」「多職種連携」の重要性が挙げられていました。

小児科，歯科，保育施設，行政，言語聴覚士等が連携しながら，こどもの食べる力（口腔機能）の発達を継続的に支援できる体制づくりが喫緊の課題であると考えられます。

４．「口腔機能発達不全」に関する認識と取り組み状況について

本調査結果から，医療機関において「口腔機能発達不全」の重要性は認識されているものの，実際の診断や支援の実施には大きな差がみられることが分かりました。歯科医師は，不正咬合，口呼吸，口唇閉鎖不全などの症状を日常的に認識している一方で，「口腔機能発達不全症」として診断した経験がある者は約３割にとどまっていました。また，医師は，食や発達に関する相談を多く受けているものの，口腔機能発達支援に取り組んでいる割合は１割未満でした。

これらの結果から，「口腔機能発達不全」の概念や評価・支援方法については，医療機関においても十分に普及・標準化されているとは言えず，今後は，医療従事者への研修や情報提供，診断・評価・指導方法の標準化と共有，保護者への啓発，歯科・小児科・教育，保育施設・行政の連携強化を進めることが重要であると考えられます。

また，幼児の保護者等調査結果から，「よくかまない」「かみ切れない」「食べるのに時間がかかる」「口呼吸」「おロぽかん」などの課題が継続してみられており，教育・保育施設でも同様の課題が把握されています。今後は，こうした日常的な気づきを「口腔機能発達不全」の視点から捉え，適切な評価や支援につなげていくことが求められます。

５． 仙台市のこどもの歯と口の健康づくり情報の認知度について

医療機関においては，「☆せんだい☆でんたるノートＦ」の認知度が高く，歯科医師 81.7%，小児科医師 80.6%でした。本市においては，小児科・歯科及び行政の連携により，乳歯萌出期からのむし歯予防に関する共通の啓発媒体として継続的に活用していることが，その認知度の高さにつながっているものと考えられます。一方，教育・保育施設では，「せんだいのびすくナビ」や「たのしねっと」の認知度は高いものの，「☆せんだい☆でんたるノートＦ」は 14.6%にとどまっていました。また、幼児健診の保護者調査では，１歳６か月児 69.1%，２歳６か月児 58.5%，３歳７か月児 50.7%と，年齢が上がるにつれて「☆せんだい☆でんたるノートＦ」の認知度は低下する傾向がみられました。

このことから，乳幼児健康診査時の情報提供だけでなく，教育・保育施設や医療機関を通じた継続的な情報発信が必要であると考えられます。今後は，「☆せんだい☆でんたるノートＦ」へ口腔機能育成に係る情報を盛り込み，医療機関のみならず，教育・保育施設や子育て支援機関とも連携を図りながら周知を進め，保護者がこどもの食べる力（口腔機能）の発達や歯と口の健康づくりに関する正しい知識を継続的に得られる環境整備を図ることが重要であると考えられます。

６．調査結果からみた今後の課題

本調査で明らかになった以下の諸課題の解決にあたっては，行政をはじめ，歯科医師会，医師会，歯科衛生士会，大学，教育・保育施設，栄養士会など，こどもの健康に関するすべての機関や団体が保護者を支援しながら連携を図り，取り組みをすすめていく必要があります。

(1) 医師は，こどもの食や発達に関する相談の入口としての役割を担い，歯科医師は，咀嚼や口腔機能，食習慣に関する専門的支援を行う立場にあることがうかがえました。一方で，保護者の相談内容は多様化しており，医療機関だけで完結することが難しいケースも少なくありません。そのため，歯科，小児科，教育・保育施設，行政がそれぞれの専門性を生かしながら支援を行う体制づくりが重要であると考えられます。

(2) 摂食嚥下機能に課題を抱えるこどもは一定数存在しており，保護者，教育・保育施設，小児科，歯科，言語聴覚士，行政等が連携しながら，早期発見・早期支援につなげていく体制の整備が重要であると考えられます。

(3) こどもの口腔機能育成について，歯科・小児科の医療機関はそれぞれの役割に応じた支援を実施していました。一方で，「口腔機能発達不全」の概念や評価・支援方法については，医療機関においても十分に普及・標準化されているとは言えず，今後は，医療従事者への研修や情報共有，診断や指導方法の標準化を図るとともに，保護者啓発や多職種連携の必要性が示唆されました。

(4)医療機関における「こどもの歯と口の健康づくり情報」の認知度は「☆せんだい☆でんたるノートＦ」が，歯科・医科ともに８割を超え最も高い状況でしたが，それ以外の情報は十分に到達していないことが示唆された。今後は，「☆せんだい☆でんたるノートＦ」へ口腔機能育成に係る情報を盛り込み，医療機関のみならず，教育・保育施設や子育て支援機関とも連携を図りながら周知を進め，保護者がこどもの食べる力（口腔機能）の発達や歯と口の健康づくりに関する正しい知識を継続的に得られる環境整備を図ることが重要であると考えられます。

【参考】アンケート調査票

「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート（歯科医療機関）

歯科医療機関のみなさまへ

「仙台市・歯と口の健康づくり計画（第３期）」では，「こどもの食べる力や飲み込む力」の育成を支援し，生涯にわたり，楽しく美味しく安全に食事をとることができるよう取り組みを進めております。

本調査は，仙台市内の歯科医療機関における「こどもの口腔機能の育成支援」に関する取り組み状況等を把握し，今後のこどもの健康づくり施策の基礎資料とすることを目的に実施するものです。

ご回答いただいた内容は統計的に処理され，当アンケート以外の目的に使用することはありません。

ご多忙のところ大変恐縮ですが，令和8年1月31日までにご回答くださいますようお願いいたします。

仙台市こども若者局 こども家庭保健課 022−214−8606

仙台市健康福祉局　健康政策課 022−214−3894

下記のフォームにご入力をお願いします。

質問はQ1～Q26です。なお回答に際しては，令和7年12月末現在でお答えください。

私（回答者）は、令和7年12月現在小児の臨床に携わっており、「歯科医療機関における『こどもの食べる力の育成支援』に関するアンケート」に協力することに同意します。

□はい（同意いただける場合、以降のアンケートにご回答ください）

Q1. 歯科医師としての臨床経験年数をお答えください ： ＿＿年間

Q2. 主な勤務先の所在地をお答えください ： □青葉区 □宮城野区 □若林区 □太白区 □泉区

Q3. 勤務先の標榜科目をお尋ねします（複数選択可）

□歯科　□小児歯科　□口腔外科　□矯正歯科　□その他（　　）

※以下の質問についての「こども」とは，未就学児を想定してお答えください

Q4. こどもの食に関する心配や困りごとについて，保護者から相談されたことはありますか

□はい→Q5へ　□いいえ→Q9へ

Q5. Q4で「はい」と答えた方のみ 保護者から1か月におおよそ何件程度、こどもの食に関する相談がありますか

＿＿件

Q6. Q4で「はい」と答えた方のみ どのような相談内容かお答えください

【こどもに関する内容】（複数選択可）

□食べるのに時間がかかる □はや食い □小食 □食べすぎる □偏食 □むら食い □あそび食い

□テレビを見ながら食べる □よくかまない □飲み込めない □食べこぼしが多い □口から出す

□音を立てて食べる □水やお茶で流し込む □お菓子やジュースを欲しがる

□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）

□自分で食べようとしない（食に対する意欲がない） □食具（スプーンや箸）を使って自分で食べようとしない

□コップで上手に飲めない □朝食を食べないことがある □その他（　　）

【保護者に関する内容】（複数選択可）

□食事を作るのが苦痛・面倒 □食べさせるのが苦痛・面倒 □時間におわれて食事に余裕がない

□こどもが食べやすい食事の作り方がわからない（形・味・温度・固さ） □いろいろな情報に振り回される

□その他（　　）

Q7. Q6の相談があった場合，どのような対応をしていますか（複数選択可）

□自院で対応する □保健福祉センターなど行政の相談窓口を紹介する □アドバイスしながら経過観察する

□こどもの口腔機能に詳しい歯科に紹介する □その他（　　）

Q8. Q6 の相談があった場合，対応する上での「困難さ」や「問題点」を感じることがありましたら具体的に記載してください。
※自由記載

Q9. こどもの食べる力（口腔機能）の育成に取り組んでいますか
□はい　□今後取り組む予定　□いいえ

Q10. Q9で「はい」「今後取り組む予定」と答えた方のみ どのような症状のお子さんが多いですか（複数選択可）
□口呼吸　□指しゃぶり　□口唇閉鎖不全　□不正咬合　□その他（　　）

Q11. こどもの食べる力の育成のためにどのようなことが必要だと思いますか（複数選択可）
□保護者の口腔習癖の認識度向上 □予防・育成のための受診習慣の確立
□耳鼻科・小児歯科等との医療連携 □保育施設・行政機関の専門職との連携体制
□口腔機能に関する診断方法・指導，訓練の体系化・標準化
□トレーニング等の効果を客観的に評価する簡便な検査方法の導入　□保護者向けの講座
□スタッフの研修

Q12. 保護者のこどもの食べる力の育成への関心を高めるためにどのような情報発信が効果的だと思いますか
※自由記載

Q13. こどもの食べる力の育成のため，導入を検討したり，効果的だと考えるトレーニングや指導ツールはありますか
※自由記載

Q14.「口腔機能発達不全症」と診断したケースはありますか
□はい→Q15へ　□いいえ→Q16へ

Q15. Q14で「はい」と答えた方のみ 口腔機能低下症と診断した場合、トレーニングは継続実施できていますか
□はい　□いいえ

Q16. こどもの噛み合わせの相談をされたことはありますか
□はい→Q17へ　□いいえ→Q18へ

Q17. Q16で「はい」と答えた方のみ 相談をされたとき，どのように対応していますか（複数選択可）
□自院で対応する　□自院で対応するが症例によっては専門医を紹介する　□専門医を紹介する

Q18. こどもの矯正治療を行っていますか
□はい→Q19へ　□いいえ→Q20へ

Q19. Q18 で「はい」と答えた方のみ どのような症例に対して行いますか
□反対咬合（下顎前突）　□上顎前突　□過蓋咬合　□開咬　□叢生　□正中離開　□切端咬合
□交叉咬合　□その他（　　）

Q20.こどもの摂食嚥下障害について相談されたことはありますか
□はい→Q21 へ　□いいえ→Q22へ

Q21.Q20で「はい」と答えた方のみ 相談された場合，どのように対応していますか
□摂食機能療法を実施する □アドバイスをしながら経過観察を行う □専門医を紹介する
□その他（　　）

Q22. こどもの言葉の発達や構音障害に関する相談をされたことはありますか
□はい→Q23へ　□いいえ→Q24へ

Q23. Q22で「はい」と答えた方のみ 相談された場合，どのように対応していますか
□自院の言語聴覚士に訓練を指示する □保健福祉センター，発達支援センターなど，行政の窓口を紹介する
□他機関の言語聴覚士に依頼・紹介する　□その他（　　）

Q24. その他，こどもの食に関することで日頃から感じられていることがあれば，自由にお聞かせください
※自由記載

Q25. こどもの食に関し，歯科医師会や保健センター，地域団体などと協働で取り組みを行っている場合は内容を記載してください。
例：子ども食堂の実施への協力など

Q26. 仙台市ではあらゆるシーンでのこどもの歯と口の健康づくり情報を発信しています。知っているものを教えてください。
□たのしねっと　□妊娠出産子育てマイプラン　□せんだいのびすくナビ　□☆せんだい☆でんたるノートＦ
□知っているものはない

ご入力ありがとうございました。

「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート（小児科医療機関）

小児科医療機関のみなさまへ

「仙台市・歯とロの健康づくり計画（第３期）」では，「こどもの食べる力や飲み込む力」の育成を支援し，生涯にわたり，楽しく美味しく安全に食事をとることができるよう取り組みを進めております。

本調査は，仙台市内の医療機関で小児の臨床に携わる小児科医の「こどもの口腔機能の育成支援」に関する取り組み状況等を把握し，今後のこどもの健康づくり施策の基礎資料とすることを目的に実施するものです。

ご回答いただいた内容は統計的に処理され，当アンケート以外の目的に使用することはありません。

ご多忙のところ大変恐縮ですが，令和8年1月31日までにご回答くださいますようお願いいたします

仙台市こども若者局 こども家庭保健課 022-214-8606

仙台市健康福祉局 健康政策課 022-214-3894

下記のフォームにご入力をお願いします。

質問はQ1～Q20です。

なお回答に際しては，令和7年12月末現在でお答えください。

私（回答者）は、令和7年12月末現在、小児の臨床に携わっている。

□はい

私（回答者）は、「小児科医療機関における『こどもの食べる力の育成支援』に関するアンケート」に協力することに同意します。

□はい（同意いただける場合、以降のアンケートにご回答ください）

Q1. 医師としての臨床経験年数をお答えください：　年間

Q2. 主な勤務先の所在地をお答えください：□青葉区　□宮城野区　□若林区　□太白区　□泉区

Q3. 勤務先の標榜科目をお尋ねします（複数選択可）

□小児科　□内科　□アレルギー科　□神経科　□新生児科　□総合診療科　□消化器科　□腎臓内科
□リウマチ・感染症科　□血液腫瘍科　□内分泌科　□循環器科　□神経科　□リハビリテーション科
□集中治療科　□発達診療科　□その他（　　）

※以下の質問についての「こども」とは，未就学児を想定してお答えください

Q4. こどもの食に関する心配や困りごとについて，保護者から相談されたことはありますか

□はい→Q5へ　□いいえ→Q9へ

Q5. Q4で「はい」と答えた方のみ　保護者から1か月におおよそ何件程度、こどもの食に関する相談がありますか

※自由記載

Q6. Q4で「はい」と答えた方のみ　どのような相談内容かお答えください

【こどもに関する内容】（複数選択可）

□食べるのに時間がかかる　□はや食い　□小食　□食べすぎる　□偏食　□むら食い　□あそび食い
□テレビを見ながら食べる　□よくかまない　□飲み込めない　□食べこぼしが多い　□口から出す
□音を立てて食べる　□水やお茶で流し込む　□お菓子やジュースを欲しがる
□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）　□自分で食べようとしない（食に対する意欲がない）
□食具（スプーンや箸）を使って自分で食べようとしない　□コップで上手に飲めない
□朝食を食べないことがある　□その他（　　）

【保護者に関する内容】(複数選択可)

□食事を作るのが苦痛・面倒　□食べさせるのが苦痛・面倒　□時間におわれて食事に余裕がない

□こどもが食べやすい食事の作り方がわからない(形・味・温度・固さ)　□いろいろな情報に振り回される

□その他(　　)

Q7. Q6の相談があった場合 どのような対応をしていますか(複数選択可)

□自院で対応する　□保健福祉センターなど行政の相談窓口を紹介する

□アドバイスしながら経過観察する　□こどもの口腔機能に詳しい歯科に紹介する

Q8. Q6の相談があった場合 対応する上での「困難さ」や「問題点」を感じることがありましたら具体的に記載してください。

※自由記載

Q9. 口腔機能障害を伴う,こどもの摂食嚥下障害について相談されたことはありますか

□はい→Q10へ　□いいえ→Q11へ

Q10. Q9で「はい」と答えた方のみ 相談された場合,どのように対応していますか

□摂食機能療法を実施する　□アドバイスをしながら経過観察を行う　□専門医を紹介する　□その他(　　)

Q11. こどもの言葉の発達や構音障害に関する相談をされたことはありますか

□はい→Q12へ　□いいえ→Q13へ

Q12. Q11で「はい」と答えた方のみ 相談された場合,どのように対応していますか(複数選択可)

□自院の言語聴覚士に訓練を指示する　□保健福祉センターなど,行政に相談する

□他機関の言語聴覚士に依頼する　□その他(　　)

Q13. こどもの食べる力(口腔機能)の育成に取り組んでいますか

□はい　□今後取り組む予定　□いいえ

Q14. Q13で「はい」「今後取り組み予定」と答えた方のみ どのような症状のお子さんが多いですか(複数選択可)

□口呼吸　□指しゃぶり　□口唇閉鎖不全　□不正咬合

Q15. こどもの食べる力の育成のためにどのようなことが必要だと思いますか(複数選択可)

□保護者の口腔習癖の認識度向上　□予防・育成のための受診習慣の確立

□耳鼻科・小児歯科等との医療連携□保育施設・行政機関の専門職との連携体制

□口腔機能に関する診断方法・指導,訓練の体系化・標準化

□トレーニング等の効果を客観的に評価する簡便な検査方法の導入　□保護者向けの講座　□スタッフの研修

Q16. 保護者のこどもの食べる力の育成への関心を高めるためにどのような情報発信が効果的だと思いますか

※自由記載

Q17. こどもの食べる力の育成のため,導入を検討したり,効果的だと考えるトレーニングや指導ツールはありますか

※自由記載

Q18. その他,こどもの食に関することで日頃から感じていることがあれば,自由にお聞かせください

※自由記載

Q19. こどもの食に関し,医師会や保健センター,地域団体などと協働で取り組みを行っている場合は内容を記載してください。

例:子ども食堂の実施への協力など

Q20. 仙台市ではあらゆるシーンでのこどもの歯と口の健康づくり情報を発信しています。知っているものを教えてください。

□たのしねっと　□妊娠出産子育てマイプラン　□せんだいのびすくナビ　□☆せんだい☆でんたるノートF

□知っているものはない

ご入力ありがとうございました。

医療機関における
「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート調査報告書

令和８年 10 月

仙台市こども若者局子育て支援推進部こども家庭保健課
仙台市健康福祉局保健衛生部健康政策課